

『 広げよう 青小ピア・サポートの輪 』

藤枝市立青島小学校

月別	ピア・サポート活動 ピア・サポートを中心に据えた行事	プログラム	職員研修	
4月	ペア顔合わせ 1年生おめでとう week 遊具の使い方 (1,2年) そうじの手伝い (1,6年) ペア活動	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>【通年】人間関係づくりプログラムやピア・サポートプログラムのスキルトレーニングを活用し、友だちとのかかわり方を学習する。(学活や道徳と関連づけて行う)</p> <p>☆各学級で日常的に認め合う場を設ける。 ☆行事や活動の際、ピア・サポートを意識したためあてを考える。</p> </div> <div style="width: 50%; border-left: 1px dashed black; padding-left: 5px;"> <p>研修 本気で考え、本気で語り合う子々学びが深まる対話</p> <p>生徒指導 三方よししく明るく元気なあいさつ・互いを大切にしよう優しい言葉と行動・チャレンジ</p> <p>特別活動 自ら動き、仲間とかかわりながら高め合う集団々子どもの思いから始まる活動</p> </div> </div>	職員会議による提案 各学年の目指すピア・サポートの具体的な姿	
5月	あいさつボランティア 野菜の苗植え (地域) 1年生おめでとう week (各学年との関わり 1,3,4,5年)		思いやりステージ	ピア・サポート掲示板作成
6月	読書週間		ピア・サポート委員会の常時活動 (ピア・サポートカード、ピア・サポートの虹等)	学校生活アンケート ピア・サポート伝達
7月	自然教室 (5年)			学校生活アンケート
8月				
9月				
10月	運動会			
11月	修学旅行 (6年) 読書週間 クラブ活動			
12月	クラブ活動 スマイルコンサート			
1月	読書週間			
2月	6年生ありがとうの会			
3月	卒業式			

1 本校のピア・サポート

本校は、校訓「誠実」を根幹に、「明き心と 思いやり 自ら動き 学び合う子」を学校教育目標としている。そして、「自ら動き、仲間と関わりながら高め合う集団」を特別活動の重点目標とし、授業や行事など学校生活の様々な場面でピア・サポートが行われている。児童数が約 900 人という大規模校であり、多くの仲間と関わることを生かした活動に取り組んでいる。

2 本年度の取組

(1) 授業において

- ・本校は、「学びが深まる対話」に重点を置いて研修を行っている。話す力・聴く力の向上だけでなく、“必要性のある対話”“意味のある対話”を引き出すための材や単元構想などを意識したことにより多くの成果が生まれた。子どもから生まれた問いについて、自然に相談をし合う様子、友達の考えと自分の考えを比べて発表する様子が見られた。
- ・1 学期に学年間で授業を見合う会を行った。同学年の授業を互いに見合うことで、子どもたちは授業に関わる様子から刺激を受け、自分たちの授業の良さや課題に気付くことができた。また、自分たちの授業について認めてもらうことで、自信にもつながっていった。

(2) 特徴的な活動

①異学年交流(1年生おめでとう WEEK・運動会・スマイルコンサート)

1 年生が学校の楽しさやルールを知り、安心して小学校生活を送れるようになることを目的として、1 年生おめでとう WEEK を行った。各学年知恵を出し合い、1 年生に楽しんでもらうにはどうしたらいいかを考えた。1 年生は、様々なレクリエーションを楽しみ、上級生との交流を通して、学校への期待感を高めることができた。運動会は、今年から 5 色対抗になり、より縦割りの意識が高まった。上級生は各団のリーダーとして応援や運営など率先して動き、下級生はその姿を見て、「自分もリーダーをやってみたい!」という思いをもった。スマイルコンサートは、杉星、1・3・5 年、杉星、2・4・6 年で分かれて合唱や楽器演奏などを行った。それぞれの学年のよさをお互いに感じ取り、感動し合う中で、上級生の演奏に魅了され憧れをもった下級生の姿が見られた。上級生も下級生により良い姿を見せたいという気持ちになり、憧れの連鎖につながった。〈提言 3〉



②ピア・サポート委員会の活動(常時活動)

本校には、ピア・サポート委員会がある。ピア・サポートを増やし、広げるために全校生徒からピア・サポートカードを集め、掲示板に貼ったり、給食の時間に全校児童に放送で共有したりして全校に広げている。昇降口につながる掲示板に掲示したことで児童が立ち止まって見たり、読んだりする姿が見られた。また、委員会活動の時には、校内のピア・サポートが増えるためにどのように全校に呼びかけたらいいかを話し合った。道徳や学活の時間を使ったり、日直がその日に見つけたピア・サポートをクラスで紹介したりと各クラスの取り組みを全校に共有した。学年色を活かし、全校から集まったカードが最後には大きな虹になるように全校でピア・サポートの輪を広げている。〈提言 7〉



3 本年度の成果と来年度に向けて

今年度も昨年度に引き続き、子ども同士の関わりや異学年交流も増えたことで多くのピア・サポートや憧れの連鎖が見られた。一方、委員会活動ではピア・サポートカードを増やすことだけに意識がいつてしまい、活動が形骸化してしまった。来年度以降、子どもがピア・サポートの意味やその活動の良さを理解して取り組めるような計画を立てていきたい。